

伊丹市総合交通計画 (中間改定版) 令和5年度進捗状況の評価

令和6年度第2回伊丹市総合交通会議(全体会)

令和6年度第2回伊丹市総合交通会議(全体会)
令和6年8月7日(水)

都市交通部交通政策室交通政策課

基本目標1 快適な移動を支える都市環境の整備

1.基本戦略

【予定を上回る】【予定通り】【予定を下回る】【未着手】【完了】の5段階評価

1-① 自転車の安全・快適な利用の促進(6施策)

◆進捗状況が【予定通り】の施策(6/6)

- ・自転車通行空間の整備[1] ・自転車駐車場の計画的な保全[2]
- ・自転車安全利用に関する啓発[3]
- ・自転車安全利用啓発指導員による啓発・指導[4]
- ・警察による指導強化[5] ・自転車保険の加入推奨[6]

1-② 安全・快適で歩いて元気になるみちづくり(6施策)

◆進捗状況が【予定通り】の施策(6/6)

- ・歩行者通行空間の整備[7] ・無電柱化の推進[8]
- ・街路樹の適正な管理[9] ・歩行者ネットワークの強化[10]
- ・安全・安心見守りネットワーク事業の推進[11]
- ・通学路・生活道路の安全対策[12]

1-③ 目的や役割に応じた効率的な道路整備(5施策)

◆進捗状況が【予定通り】の施策(5/5)

- ・都市計画道路の整備[13] ・渋滞交差点の解消・緩和[14]
- ・橋梁等の計画的な保全[15]
- ・名神湾岸連絡線等の整備推進[16] ・被災時の輸送路確保[17]

1-④ 環境に配慮した交通まちづくり(4施策)

◆進捗状況が【予定通り】の施策(4/4)

- ・環境負荷の少ない道路整備の推進[18]
- ・スマートムーブの推進[19] ・自転車通勤の促進[20]
- ・グリーン経営の促進[21]

2.評価指標

「◎」目標を上回る 「○」概ね目標通り 「△」目標を下回る

評価指標	性質		H31/R1 (現状)	R3	R4	R5	R6	評価 状況
自転車レーン等 整備区間延長 (km)	↑	目標	—	9.0	9.4	10.5	12.2	—
		実績	7.8	9.0	9.2	9.5	—	△
市営自転車駐車場 利用台数(台/ 日)	↑	目標	—	6,064	6,331	6,598	6,865	—
		実績	6,865	5,999	6,370	6,680	—	○
交通安全教室の 参加者数(人/年)	↑	目標	—	6,300	6,350	6,400	6,450	—
		実績	6,258	4,322	4,716	4,779	—	△
自転車関連事故 件数(件/年)	↓	目標	—	396	377	357	337	—
		実績	420	238	184	160	—	◎
人口1万人当 たりの自転車関連 事故件数(件/年)	↓	目標	—	20	19	18	17	—
		実績	21	12	9	8	—	◎
歩道(街路樹)再 整備延長(km)	↑	目標	—	0.6	1.5	2.2	2.4	—
		実績	0	0.4	0.4	1.5	—	△
都市計画道路整 備率(%)	↑	目標	—	88.7	88.9	89.0	89.1	—
		実績	88.1	88.6	88.8	89.0	—	○
大気汚染に関す る環境基準達成 率(二酸化窒素N O ₂)(%)	=	目標	—	100	100	100	100	—
		実績	100	100	100	100	—	○

基本目標1 快適な移動を支える都市環境の整備

3.主な実施施策

【無電柱化の推進】

阪急伊丹駅、JR伊丹駅等の4つの核(4極)を結ぶ2軸路線である市道中央天津線(伊丹酒蔵通り)等において、景観・バリアフリー・防災の観点から、電線類を地中化し、ひと中心の安全・安心・快適な歩行空間、及び自転車通行空間の創出に向けた事業を進めています。

令和5年度には市道宮ノ前4085号線(猪名野神社前からアイフォニックホール前まで)の電線類の地中化工事(無電柱化工事)が完了しました。

<市道宮ノ前4085号線>



【整備前】

位置図



【整備後】

【自転車の安全利用啓発冊子の改訂】

阪急伊丹駅周辺等で路上駐輪ラックを管理運営する株式会社アーキエムズが、令和元年、令和2年に引き続き、令和5年4月1日施行の改正道路交通法に伴うヘルメット着用努力義務化等を反映した自転車の安全利用啓発冊子「Enjoy 自転車 life in Itami」を作成しました。

自転車交通安全教室や啓発イベント等で活用するなど、民間事業者と連携した取り組みが進められました。



基本目標1 快適な移動を支える都市環境の整備

【自転車ヘルメット購入応援事業の実施】

令和5年4月1日施行の「改正道路交通法」により、すべての自転車利用者に対し、自転車乗車用ヘルメットの着用が努力義務化され、兵庫県による自転車ヘルメットの着用促進に向けた、「自転車ヘルメット購入応援事業」が実施されました。

本市においても、本事業について市ホームページ等による広報活動や、市窓口での給付申請に係る入力支援を行いました。

出典:兵庫県

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk15/jitensyahelmet.html>

4.計画の進捗に対する評価

●ソフト対策

市、警察、関係団体が連携した取り組みが行われており、「自転車関連事故件数」が目標値を達成する等、効果があらわれています。

特に令和5年4月1日に施行された改正道路交通法において、「すべての自転車利用者に対する乗車用ヘルメット着用の努力義務」が定められ、「自転車安全利用に関する啓発」において、市・警察等が連携して広報活動を行うとともに、兵庫県による高齢者、子育て世代及び学生を対象とした「自転車ヘルメット購入応援事業」を実施するなど、交通安全意識の向上と自転車ヘルメット着用の促進が図られています。

また、自転車レーンの供用開始と併せた、隣接した歩道の「普通自転車歩道通行可」の交通規制の廃止については、引き続き、市、警察が連携した周知・啓発活動を行い、自動車・自転車・歩行者の通行空間の分離の推進を図る必要があると考えられます。

●ハード対策

中心市街地(宮ノ前4085号線ほか3路線)における電線共同溝整備工事が完了する等、安全・快適な道路空間の整備が進んでいます。

また、「歩行者通行空間の整備」では、鉄道踏切や歩行者専用通路に点字ブロックを設置するなど、バリアフリー化が推進されています。

基本目標2 交流を支える公共交通の充実

1. 基本戦略

【予定を上回る】【予定通り】【予定を下回る】【未着手】【完了】の5段階評価

2-① 公共交通の利便性向上(9施策)

- ◆進捗状況が【完了】の施策(1/9)
 - ・バス位置情報提供サービスの研究[29]
- ◆進捗状況が【予定通り】の施策(8/9)
 - ・わかりやすい乗換案内の推進[22]
 - ・駅構内での安全性の確保[23]
 - ・バス停留所の整備[24]
 - ・バス停留所隣接の自転車駐車場整備の検討[25]
 - ・空港へのアクセス確保[26]
 - ・需要に応じた路線および運行ダイヤの研究[27]
 - ・新たな都市間交通の研究[28]
 - ・自動運転技術活用の研究[30]

2-② 公共交通の利用促進(7施策)

- ◆進捗状況が【予定通り】の施策(6/7)
 - ・公共交通や商業事業者、イベント等と連携した公共交通の利用促進[32]
 - ・高齢者等への市営バス特別乗車証等の交付[33]
 - ・市営バスオリジナルグッズの製作・販売[34]
 - ・市営バス事業の経営基盤の強化[35]
 - ・阪神都市圏公共交通利用促進協議会との連携[36]
 - ・兵庫県地域公共交通MaaS推進協議会との連携[37]
- ◆進捗状況が【予定を下回る】施策(1/7)
 - ・公共交通利用に関する啓発[31]

2-③ 高齢者等の移動手段の確保(4施策)

- ◆進捗状況が【予定通り】の施策(4/4)
 - ・高齢者等への市営バス特別乗車証等の交付[再掲33]
 - ・高齢者、障がい者の外出支援[38]
 - ・高齢者等の移動手段の研究[39]
 - ・新しい移動手段の研究[40]

2. 評価指標

「◎」目標を上回る 「○」概ね目標通り 「△」目標を下回る

評価指標	性質		H31/R1 (現状)	R3	R4	R5	R6	評価 状況
市営バス利用者数 (万人/年)	↑	目標	—	1,527	1,527	1,527	1,527	—
		実績	1,527	1,191	1,263	1,321	—	△
鉄道乗降客数 (人/日)	↑	目標	—	72,240	82,560	92,880	103,200	—
		実績	103,200	87,087	91,497	95,225	—	◎
交通局営業収 支率(%)	↑	目標	—	90	90	90	90	—
		実績	90	76	80	81	—	△

基本目標2 交流を支える公共交通の充実

3.主な実施施策

【キッズフェスでの公共交通の利用啓発】

伊丹スポーツセンターで開催されたスポーツや文化の「体験・ふれあいの場」を提供する子ども向けイベント、「キッズフェスいたみ」において、市・警察・公共交通事業者が連携し、バスの乗り方や交通安全に関する啓発を行いました。

バス車両を用いた「バスの乗り方」や「バスの死角」となるポイントを体感してもらうブースの設置や「交通安全」や「バスの乗り方」に関するクイズに加え、自転車シミュレーターによる体験型安全講習など、家族で楽しめるイベントとなりました。



【EVバスの試験運行開始】

脱炭素社会の実現に向けた公共交通事業者の取り組みとして、EVバスの導入が進められています。

市交通局では、令和5年5月よりEVバス2台の試験運行を開始されるなど、「2050年カーボンニュートラル」の実現を目指した取り組みが開始されました。



伊丹市交通局



阪急バス株式会社
(茨木・千里・猪名川営業所管轄の一部路線にて運行中)



阪神バス株式会社

基本目標2 交流を支える公共交通の充実

【阪急伊丹線各駅に固定式ホーム柵を設置】

阪急電鉄(株)では「鉄道駅バリアフリー料金制度」を活用し、伊丹線各駅(塚口・稲野・新伊丹・伊丹)において、ホームと車両の段差を解消するための工事を実施するとともに、固定式ホーム柵を設置し、ホーム上の安全性確保に向けた取り組みを実施しました。

また、ホーム上の安全性確保と併せて、鉄道利用者の利用動向の変化や少子高齢化、運転士不足などといった現在の状況下において、持続可能な鉄道サービスを実現することを目的に、阪急伊丹線でワンマン運転を開始しました。



4.計画の進捗に対する評価

「鉄道乗降客数」が目標値を達成するなど、新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ交通需要に回復傾向が見られます。

公共交通の利用促進の取組については、市、公共交通事業者が連携して、キッズフェスいたみ等の市内イベント等の機会を活用した、公共交通利用に関する啓発が進められています。

また、公共交通事業者による「グリーン経営の促進」では、EVバス等の低公害車の試験運行等が行われるなど、脱炭素社会の実現に向けた取り組みが進められています。

一方、「駅構内での安全性の確保」の取り組みでは、阪急伊丹線の各駅におけるセンサ付固定式ホーム柵の設置等の安全対策に加え、運転士不足等の担い手不足への対応としてワンマン運転を開始するなど、持続可能な鉄道サービスの維持・確保に繋がる取り組みであると考えます。

さらに、県内バス事業者等によるバス運転士の合同就職説明会の開催や自動運転バスの社会実装に向けた取り組みについての調査・研究等、運転士不足をはじめとする地域公共交通が直面する課題解決に向け、引き続き取り組む必要があると考えます。

基本目標3 地域資源と市民力を活用した交通まちづくり

1.基本戦略

【予定を上回る】【予定通り】【予定を下回る】【未着手】【完了】の5段階評価

3-① 空港を活かしたまちづくり(4施策)

◆進捗状況が【予定通り】の施策(4/4)

- ・空港へのアクセス確保[再掲26]
- ・わかりやすい乗換案内の推進[再掲22]
- ・空港の利便性の向上[41]・空港利用者の誘導[42]

3-② 中心市街地回遊性の向上(4施策)

◆進捗状況が【予定通り】の施策(4/4)

- ・無電柱化の推進[再掲8]
- ・駐車場の計画的な保全[43]
- ・公共施設や商業事業者、イベント等と連携した公共交通の利用促進[再掲32]
- ・新しい移動手段の研究[再掲40]

3-③ 中心市街地における自転車等の放置の防止(4施策)

◆進捗状況が【予定通り】の施策(4/4)

- ・自転車駐車場の計画的な保全[再掲2]
- ・自転車駐車場の利用促進[44]
- ・放置自転車等の啓発・指導[45]
- ・放置自転車等の撤去強化[46]

3-④ 市民とともに作る交通まちづくり(5施策)

◆進捗状況が【予定通り】の施策(5/5)

- ・民間事業者との連携による交通安全啓発[47]
- ・高齢者運転免許自主返納の周知・推進[48]
- ・自転車安全利用啓発指導員による啓発・指導[再掲4]
- ・利用者の声を反映した市営バスの運営[49]
- ・交通政策に対する意見聴取[50]

2.評価指標

「◎」目標を上回る 「○」概ね目標通り 「△」目標を下回る

評価指標	性質		H31/R1 (現状)	R3	R4	R5	R6	評価 状況
空港線バス乗降客数(千人/年)	目標	↑	—	226	283	340	396	—
	実績		566	278	352	416	—	◎
中心市街地4エリアにおける1日あたりの流動人口(4エリア合計)	目標	↑	—	102,000	112,200	123,420	135,760	—
	実績		168,064	99,190	96,918	104,460	—	△
中心市街地の自転車・歩行者の休日通行量(人/10h、1調査地点当たりの平均)	目標	↑	—	6,590	—	—	8,330	—
	実績		8,238	7,050	—	—	—	—
観光入込客数(千人/年)	目標	↑	—	3,100	3,100	3,100	3,100	—
	実績		2,738	1,931	2,498	2,365	—	△
放置自転車等台数(台/日) ※調査日における台数	目標	↓	—	120	119	118	117	—
	実績		120	58	38	56	—	◎
人口1万人当たりの交通事故発生件数(件/年)	目標	↓	—	49	48	47	46	—
	実績		50	34	25	22	—	◎
高齢者交通事故発生件数(件/年)	目標	↓	—	310	300	290	280	—
	実績		328	209	153	140	—	◎

基本目標3 地域資源と市民力を活用した交通まちづくり

3.主な実施施策

【空港アクセスバスの利用啓発】

伊丹空港でのイベント(空の日、雪まつり)にて、「清酒発祥の地伊丹」及び日本遺産「伊丹諸白」と「灘の生一本」下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷」のPR事業と連携したイベントブースを設置し、イベント来場者に向けた空港アクセスバスの利用促進を図りました。

また、空港のビジネス利用者層に向け、伊丹・尼崎・宝塚商工会議所会報へのPRチラシの挟み込みを行うとともに、ラッピングバスの運行や市バス前幕及び阪急伊丹駅・JR伊丹駅前のペDESTリアンデッキ等への横断幕設置など、様々な手法による空港アクセスバスの利用啓発を行いました。



【「伊丹まちなかバル」和市バスの連携】

令和4年度に引き続き、「伊丹まちなかバル」のチケット(1冊5枚綴り)に、大人1人が100円で市バスに乗れる「優待割引乗車券」1枚を付けて発売する等、伊丹市内のイベントと連携した取り組みが行われています。



4.計画の進捗に対する評価

「空港線バス乗降客数」が目標値を達成するなど、伊丹市の地域資源である空港を活かしたまちづくりの取り組みの効果があらわれています。

令和5年7月の市バスのダイヤ改正による、**大阪国際空港始発便への対応**や**パターンダイヤ化**は、アクセスバス利用者の利便性向上に繋がる取り組みだと言えます。

一方、「放置自転車等台数」が目標値を達成しているものの、新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ人流等の回復により、昨年度と比較して実績値が増加していることから、放置自転車等の啓発・指導等について継続的な取り組みが必要である。

引き続き、商業事業者やイベント等との連携など、地域資源を活かした交通まちづくりに取り組む必要があると考えます。